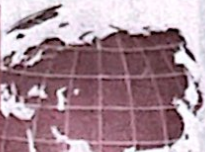


グローバルにいがた @世界の街



## インド・ムンバイ

月曜掲載

インドと聞くとカレーやヨガの国というイメージがあると思いますが、多言語、多民族、多宗教国家でもあります。

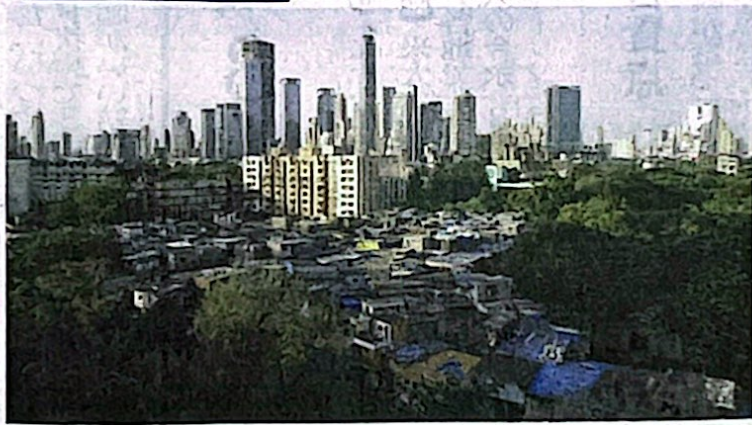
昨年半ばの推計では人口が14億2860万人となり、中国を上回り世界1位になりました。昨年8月には、インド宇宙研究機関が無人探査機を世界で初めて月の南極付近に着陸させるなど、世界の脚光を浴びています。

私が住んでいるムンバイ(旧ボンベイ)はインドの西海岸にある人口密度が世界トップクラスの街で、金融センターとしても知られ

## IT就職へ競争激しく

三条市出身

るインド最大の都市です。英国の植民地時代の建物が多くあり、アラビア海に臨むムンバイ港の海岸線には1924年建造のインド門があります。世界で2番目に競技



人口が多いとされるスポーツのクリケットも盛んです。

映画産業の中心地としても有名です。街は高層ビルの建築ラッシュが続いていますが、その傍らには多くのスラム街があります。入試の倍率50〜100倍のインド工科大学があり、人口が多い分、受験競争を勝ち抜くために多くの学生が塾などに通い必死に勉強します。

その中で、IT産業の分野は個人の能力を重視し比較的カーストの影響を受けにくいいため、多くの若者の注目の的となっています。グーグルやマイクロソフト、IBMのCEOはインド人。このことが、インドの急速なIT化の進展の要因にもなっています。

また、長く英国の植民地だったことから、英語が第2公用語とされています。そのため教育においてもムンバイ市内の様子。高層ビルの周辺にはスラム街が多くあります

ては「英語を学ぶ」でなく「英語を使って何をどのように学ぶのか」が重要とされ、英語のスキルが将来就ける職業を大きく左右するといわれています。

日本企業が英語を話せるインド人エンジニアを多数採用することでインドが日本のIT産業に大きな影響を与えていることから両国の関係は今後も密接になっていくと思います。これからもインドから目を離せません。

(佐藤さんは1963年生まれ。文部科学省の在外教育施設派遣教員として、2023年からムンバイ日本人学校に校長として勤務しています)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウエブサイト新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。

